

長野大学紀要

第42巻第1号（通巻第148号）

長野大学

2020年7月

長野大学紀要

第42巻第1号（通巻第148号）

長野大学

2020年7月

目 次

<論 文>

地域住民が考える問題を抱える人を相談機関につなげて解決は困難なケース

—テキストマイニングによる住民意識調査の分析から—

.....合 田 盛 人..... 1

身体感覚教育論の視点からの地域文化資源の教材開発

—信州上田別所三頭獅子舞を素材に—

.....松 田 和 彦..... 9

企業の成熟期における経営学

「品質・機能・価格」の経営学と、「顧客にして欲しい思い」の経営学

.....森 俊 也..... 123

<研究ノート>

公共社会学における経験的研究に関する試論

マイケル・ブラウォイの「拡張事例研究法」に着目して

.....松 永 伸太朗..... 137

<実践報告>

視覚障害児に対する「確かな体験」を育む指導プログラムに関する実践報告

.....奈 良 里 紗・相 羽 大 輔・鳥 居 信 吾・尾 原 健 太..... 145

長野大学紀要編集規程

(名称および発行)

第1条 本誌を「長野大学紀要」(以下「本紀要」という。)と称し、年4回発行することを原則とする。

(目的)

第2条 長野大学において教員が行っている研究および本学で実施された共同研究や受託研究の成果を学内外に紹介し、長野大学の教育・研究活動の活性化に寄与することを目的とする。

(編集委員会)

第3条 長野大学図書館運営委員会のもとに、長野大学紀要編集委員会(以下「編集委員会」という。)を置く。編集委員会委員長は図書館運営委員会委員長が兼ねる。

2 本紀要の原稿の募集・編集は編集委員会が行う。

(投稿資格)

第4条 投稿できる者は原則として本学の専任教員、客員教員、名誉教授とする。ただし、本学の非常勤講師等も投稿することができる。

2 本学の教員と共同研究を行う者。

3 本学学生・研究生等は、投稿資格を有する教員等が共著者である場合は投稿を認める。

4 その他編集委員会が認めたもの。

(投稿原稿)

第5条 本紀要に掲載する原稿は他に未発表のものに限り、種類は次の各号に掲げるものとする。

(1) 論文

(2) 研究ノート

(3) 書評

(4) その他の編集委員会の認めたもの

(研究倫理の遵守)

第6条 本紀要に投稿する原稿は、長野大学研究倫理規程に則ったものであること。

(点検)

第7条 本紀要に掲載される論文等の水準を維持するために、編集委員会が点検を行う。場合によっては編集委員以外の者の意見を聞くことがある。

2 編集委員会は点検の結果に基づき、原稿の内容について執筆者に修正を求めることがある。

3 点検についての詳細は別に定める。

(掲載の可否)

第8条 編集委員会は点検結果に基づき、投稿原稿の掲載の可否を決定する。

(著作権)

第9条 本紀要に掲載された論文等の著作権の取り扱いは、以下のとおりとする。

(1) 著作権は著者に帰属する。

(2) 著者は著作物の複製権と公衆送信権の行使を大学に委託する。

(3) 本紀要に記載された論文の全部あるいは大部分を他の著作物に利用する場合には、その旨を編集委員会に申し出るとともに、出典を明記すること。また、一部を利用する場合にも、文献あるいは図説の下に出典を明記すること。

(論文等のネットワーク上での公開)

第10条 本紀要に掲載された論文等は、原則として電子化し、長野大学ホームページ等を通じてネットワーク上に公開する。

2 公開を希望しない場合は、寄稿申込時に所定の手続きにより、公開を拒否することができる。

(配布)

第11条 発行された紀要は専任教員、客員教員、名誉教授および非常勤講師等へ配布する。

(抜刷)

第12条 執筆者には抜刷50部を配布する。ただし、50部をこえる分については執筆者がその費用を負担するものとする。

(執筆要領)

第13条 原稿は別に定める執筆要領にしたがうこととする。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、全学教授会の意見を聴き、学長が行う。

附則

本規程は平成29年4月1日から施行する。

編集委員会

委員長 高橋 大輔

委員 石川 義宗, 黒木 保博, 佐藤 修哉,

望月 宏祐

2020年7月31日 発行

長野大学紀要 第42巻第1号(通巻第148号)

編集 長野大学紀要編集委員会

発行所 長野大学

長野県上田市下之郷 658-1

TEL (0268)39-0005

印刷 田口印刷株式会社

上田市殿城 425-1

TEL (0268)22-0680

BULLETIN OF NAGANO UNIVERSITY

Vol.42, No.1, July 2020

CONTENTS

Articles

- A case where local residents think that it is difficult to solve
even if they have a problem person connected to the consultation agency:
From analysis of resident awareness survey by text mining
Morihiro GOUDA..... 1
- Development of Teaching Materials of Local Cultural Resources from the Viewpoint of Physical Sensory
Education:
Focusing on the Case of the Shinto Ritual “Bessyo Mikasira-Jishi” Preservation Association
Kazuhiko MATSUDA 9
- Business Administration for the Enterprises at the Mature Stage:
Based on “Quality, Function, Price” and Based on “Desire”
Shunya MORI.....123

Research Notes

- A preliminary investigation on empirical research in public sociology:
Focusing on ‘The Extended Case Method’ of Michael Burawoy
Shintaro MATSUNAGA..... 137

Activity Report

- Practical report on a teaching program using "direct experience" for children with visual impairments
Risa NARA · Daisuke AIBA · Shingo TORII · Kenta OHARA.....145